

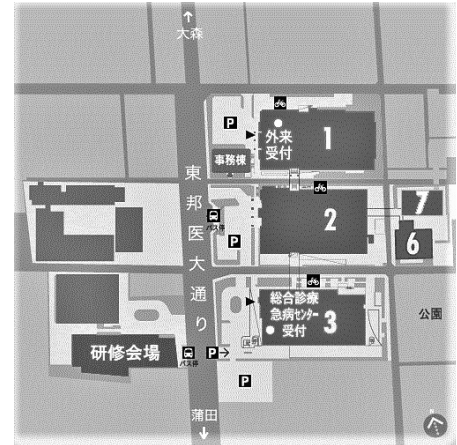
# 国際歯科医療安全機構 学術研修会



日時：2019年10月19日(土曜日) 15:00～18:30  
会場：東邦大学医療センター大森病院  
5号館地下1階 「臨床講堂」  
(東京都大田区大森西 6-11-1)

## 参加費：

歯科医師・医師	4,000 円
歯科衛生士・歯科技工士・助手・看護師	2,000 円
医療系学生	無料



## プログラム

- 15:00 開会挨拶  
瀬戸 暁一 国際歯科医療安全機構 理事長
- セッション①座長 関谷 秀樹(東邦大学医療センター大森病院 口腔外科部長)
- 15:10 寺田 享志 (東邦大学医療センター大森病院 医療安全管理副部長・麻酔科講師)  
「東邦大学大森病院における医療安全対策」
- 15:55 関東 裕美 (東邦大学医療センター大森病院 スキンヘルスセンター長・臨床教授)  
「口腔病変と皮膚・粘膜疾患～歯科金属アレルギーを中心に」
- 16:40 休憩
- セッション②座長 新保 悟 (医療法人社団 創新会 理事長)
- 16:50 新谷 浩和 (新谷歯科医院 院長)  
「訪問歯科診療における安全対策～認知症を中心に～」
- 17:35 三浦 一恵 (医療法人社団 創新会 大森・東京歯科口腔外科 センター長)  
「歯科治療における偶発症」
- 18:20 閉会挨拶

主催：国際歯科医療安全機構  
共催：東邦大学 医学部口腔外科  
大森・東京歯科口腔外科  
IOM (国際口腔医療ネットワーク)

セッション①座長 関谷 秀樹(東邦大学医療センター大森病院 口腔外科部長)  
15:10 寺田 享志  
(東邦大学医療センター大森病院 医療安全管理副部長・麻酔科講師)  
「東邦大学大森病院における医療安全対策」

2015年10月より「医療事故調査制度」が開始され、2018年12月末までに、医療事故1,234件が報告された。医療ミスをなくすには、人間はミスをするを前提にシステムをつくる必要がある。たとえば、誤投薬をなくすには、古典的な方法では、ダブルチェックを行う、最近では、薬剤師が専門家の目でチェックする多職種連携を構築することや電子カルテでは、投薬禁忌項目で警告が出るなどの手法がとられている。さらにAI(人工知能)の導入は医療事故を軽減するだろう。ただし、医療事故を撲滅するには、医療事故が発生するメカニズムを知る必要がある。医療事故は報告されることで、医療安全管理部に情報が伝わる。我々にとって、レポートは医療事故発生メカニズム解明に必要な情報である。些細なレポートを多く集積するほど原因究明、予防策が明確になるわけである。医療事故を無くすには、些細な報告を、手間を惜しまず行える文化を熟成することが必要である。

15:55 関東 裕美  
(東邦大学医療センター大森病院 スキンヘルスセンター長・臨床教授)  
「口腔病変と皮膚・粘膜疾患～歯科金属アレルギーを中心に」

乳幼児・若年層～高齢者層まで日常生活に支障をきたすような口腔粘膜病変を呈することがあり、このような場合患者は何科を受診したらよいか分からず困るようである。症状の程度、時期、随伴症状などにより内科・皮膚科・耳鼻咽喉科・歯科など迷いながら受診されるが、口腔病変は全身性皮膚疾患の初発症状であることも多い。難治性口内炎として漫然と治療される場合もあり、口腔・歯科領域でもこれらの疾患に対する正しい知識を持つことにより、早期に正しい診断がなされる可能性がある。一方社会的に金属アレルギーが周知される様になり、歯科治療前に金属アレルギー検査を依頼されることも多い現状であり、生体内に必要な金属イオンバランスが崩れることにより生じる口腔粘膜病変も診ることが多い。我々は口腔病変と皮膚粘膜疾患さらには自己免疫疾患、全身性疾患の関与についてお互いに情報を共有しながら対処する必要があると常に感じている。

セッション②座長 新保 悟 (医療法人社団 創新会 理事長)  
16:50 新谷 浩和  
(新谷歯科医院 院長)  
「訪問歯科診療における安全対策～認知症を中心に～」

超高齢社会での歯科医療は『口腔機能低下症』を含め重要な取り組みです。適切な歯科医療とともに、『安全で・おいしく食べること』における生活支援が求められています。特に在宅歯科医療では、ICF(国際生活機能分類)に対応した、個々の生活機能を考慮した口腔医療安全管理が喫緊の課題です。認知症の人の理解、ICFに対応した在宅療養の場での歯科医療・生活支援対応事例を提示して、皆様とともに考えていきたいと思えます。

17:35 三浦 一恵  
(医療法人社団 創新会 大森・東京歯科口腔外科 センター長)  
「歯科治療における偶発症」

近年、高齢者や全身疾患を持った患者の来院が増加している。緊急事態が起きて救命処置をするということも大事であるが、そのようにならない準備、予防が大事である。ここでは歯科治療における偶発症、実際に起きた症例を提示し何が起きたか、どのような対処をしたか、その結果をお話しする。そこから事前に問診で何を聞いておくのか、何を調べておくのか、何に気をつけて処置するのか具体的にお話しする。

FAX : 03-6459-4677

Web : <https://gsdp.jp>

HP からもお申込みできます

## 国際歯科医療安全機構 学術研修会 申込用紙

10月19日 東邦大学医療センター大森病院 5号館地下1階 臨床講堂

ご記入日	年 月 日
フリガナ 氏名	
性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
勤務先名	
勤務先住所	〒
TEL	
メールアドレス	@
職務	<input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士・助手 <input type="checkbox"/> 歯科技工士 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> その他

書類送付の自宅を希望される方は、自宅住所もご記入ください。

自宅住所	〒
------	---

国際歯科医療安全機構では会員を募集しております。

会員に対して、医療安全に関する情報発信や医療安全の「認定」授与など行っております。

この機会にご入会いただけますようお願い申し上げます。

入会	<input type="checkbox"/> 希望する <input type="checkbox"/> 検討するが、今は入会しない
----	--

**研修会参加費：** 参加費は当日受付にて徴収いたします。

歯科医師・医師	4,000 円
歯科衛生士・助手・歯科技工士・看護師	2,000 円
その他（医療関係者）	2,000 円
学生	無料

**入会・年会費：** 入会・年会費は当日受付にて徴収いたします。

歯科医師・医師	8,000 円
歯科衛生士・助手・歯科技工士・看護師	4,000 円
学生	2,000 円